

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200539		
法人名	社会福祉法人 愛世会		
事業所名	グループホーム センチュリー21		
所在地	宇部市大字山中126-1		
自己評価作成日	平成22年11月8日	評価結果市町受理日	平成23年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食事は1日3食職員と一緒に作り、食べたいものを食べている ・月1回の外食や各種レクリエーション、季節の行事等を実施している ・家族へ毎月発送しているグループホーム便りには「担当者のコメント」を記入している ・母体施設である特養からの応援体制が整っている ・1日2回特養看護師(グループホーム担当看護師)による様子観察、健康チェック等が行われている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三食とも事業所で食事づくりをされています。利用者の好みや希望を取り入れた献立で、調理、味見、食器荒い、後片付けなどできることを一緒にして、職員も同じものを食べながら食事を楽しむことができるよう支援しておられます。生け花や趣味の舞、糖漬け、梅干し、らっきょ漬け、雑巾縫いなどの楽しみごとや活躍できる場面作りをして張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援されています。週3回の買い物、保育園児や中学生との交流、ボランティアの受け入れなど地域との交流を深めるように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	民家から離れていることにより日ごろの地域交流が難しい為、地域のボランティアを積極的に受け入れるなどして交流に努めていることを理念とし、実践につなげている	「地域のボランティアを受け入れるなど、慣れ親しんだ環境のもとで交流する」ことを地域密着型理念としてつくり、スタッフルームに掲示して、朝の申し送り時に職員間で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に参加し、周知啓発の為独自のちらし等を作成して広報活動を行う	地域の文化祭や夏まつりに出かけたり、法人の夏祭りに地域の子どもの達が参加するなど交流している。ボランティア(草笛コンサート、老人会等)や実習生の受け入れ、保育園児や中学生との交流等で地域との付き合いに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地元の小中学校の生徒との「ふれあい交流」を受け入れている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	法人で部署別に取り組んでいる業務改善会議には、評価結果を元にして考えた「屋外で過ごす時間を増やしていく」を課題にして取り組んでいる	評価の意義を理解し、自己評価は項目毎に職員で話し合い、管理者がまとめている。ケアの振り返りや見直しになると共に、業務改善会議等で具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバー拡大について話し合った時、近隣校区の民生委員や地域の消防団、警察などの拡充について話し合った	2ヶ月に1回の開催で、民生委員と家族の方を新たに増やすことや利用者の様子、事業報告、外部評価の報告等について意見交換をして、出た意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談したい時には、積極的に連絡をとるようにしたり市直営の包括支援センターやサービス調整会議(北部ブロック会議)等で積極的に連携・協力関係を築いている。	介護保険課と、相談、情報交換等で連携している。地域包括センターとは北部ブロック会議等で連携し、協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設の併設にある為、施設全体がフェンスに囲まれている。それにより玄関などは24時間施錠はしていない。また、ベットの使い方ひとつにしても意識して話し合っている	身体拘束の方針やマニュアルを作成している。年1回の研修会参加や法人の「身体拘束廃止委員会」の会議に参加し、全職員は理解して拘束のないケアに取り組んでいる。施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者を無視した発言や行動なども虐待につながっていることを日々の勤務中にも話し合っている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しく入居された方が成年後見制度を利用されていて身近に感じることができた。今後、必要な方には活用について支援したい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族にわかりやすい発言に心がけ安心につなげていけるように意識した		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見を貴重な提言と捉えグループホーム会議に取り上げ話し合っている	家族会や運営推進会議時に家族から意見、要望を聞くように努めている。苦情の受付体制、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定め周知して、意見や要望を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や主任を通して意見を聞くなどして反映につなげている	職員会議での提案の他、主任が意見や要望を聴く機会を設けている。出された意見は運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得をめざす職員に対し、法人として可能な支援を行い資格手当を支給している		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて毎月職員会議の後に施設内研修を行っている	外部研修は勤務の一環として段階的に参加できるように支援している。受講後は復命し、共有する機会を設けている。法人内部研修は年間計画を作成し、月1回の実施している。職員会議で独自の勉強会や働きながらのトレーニングに取り組み、職員のスキルアップを進めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	7月の運営推進会議でも取り上げ、時間をかけて検討していくこととなった		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の時、来訪してもらい入居者とゆっくり会話をしながら入居者を通して、様子や話の内容から何を考え何を求めているのかを察し安心につなげていけるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のペースにあわせて、手続き等を進め良い関係作りに努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用は考えていない		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のペースにあてはめないように心がけている。又、関わった時には感謝の言葉を述べるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発送しているグループ便りの「担当者のコメント」を読んでおられ面会の時にはコメントについての話などして関係を築いている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	桜の花見を馴染みの人がいそうな所へ出かけると丁度ゲートボールをしておられ話をすることができた	利用者の地元の文化祭に出かけて、懐かしい人々と出会ったり、ディサービス利用の知人の訪問や地域の人がボランティアとして来訪するなど、関係継続ができるように努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や外出で車に乗った時には、隣の席にするなどしている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体施設の特養に転居した入居者の家族と会った時には、近況など聞いて役に立つことがあれば支援に努めていけるよう心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務優先ではなくケア優先を心がけ、コミュニケーションを少しでも多く図り、本人の思いの把握につながるように努力している	日々の関わりの中で利用者とコミュニケーションを図り、必要な情報はケース記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	敬老祝賀会にお孫さんが出席され食事会の時には、近況を伝えながらいろんな話を聞くことができた		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「日課計画表」を作成している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に話し合っている	カンファレンスシートを作成し、3ヶ月毎にモニタリングを行い、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見等を反映した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をする際、「題名」を書き何についての記録なのかをわかりやすくしている。また、感じたことやどのようなケアをしてどうだったかなど経過や結果も記入するように心がけている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の入居者に迷惑がかかるような行動障害が出現した際、グループホーム担当の看護師と嘱託医に相談しながら医療処置を受けながら生活の継続ができるよう配慮している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に3回利用しているスーパーの店員さんには、元気よく声をかけられたりしながら自然に見守られている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特定のかかりつけ医がいない場合、嘱託医による、適切な医療が常に受けられる	本人や家族の希望するかかりつけ医や事業所の協力医療機関がかかりつけ医となっており、事業所と関係を築き、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の主任看護師がグループホーム担当の看護師でもある為、毎日朝、夕の2回健康状態の把握に努めており適切な受診や看護を行っている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに様子を観に行き病院関係者や家族とコミュニケーションを図ったり情報交換しながら、現状把握に努めるように心がけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の方針について、母体施設の特養への入所の考えを示している	重度化した場合について契約時に説明し、早い段階から家族、医師、職員など関係者と話し合い、法人の特養への入所という方針を共有して、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	グループホーム内では「誤嚥の対処法」について勉強会を行い、法人では、AEDの寄贈があった為、「心肺蘇生法とAEDの使い方」など施設内研修に参加した	ヒヤリはっと報告書に記録し、対策を話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人内部研修で「心肺蘇生法とAEDの使い方」の研修を実施し、事業所独自の勉強会では「誤嚥の対処法」に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的訓練はしていない。	・定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月法人で避難訓練を実施しているが、グループホームも参加し、日中や夜間、風水害の想定訓練などしている	毎月法人で避難訓練（昼夜間及び風水害）、通報訓練を実施している。非常用の備蓄も整えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「職員が何気なく発する言葉は、どの程度利用者に影響を与えているかを考える」について話し合い書き記したものを事務所に貼付している	利用者一人ひとりの人格を尊重し、排泄時の声かけ等、プライバシーを損ねない対応に努めている。日頃の職員の対応の仕方について主任が指導を行っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に思いを言えない利用者には、声をかけている。また日ごろより本人との会話で思いを把握するように努めている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活のその時々、の過ごし方など職員も把握しており本人のペースを大事にしている。また職員のペースにならないように努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月散髪ボランティアが来訪しているが、強制せず本人の意向を大事にしている。また移動美容室など希望があれば利用している。そして、外出の時などは本人らしい服装の支援をしている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「おいしく食べる」を心がけ飲酒をする人もいる。また役割分担など自然に決まってきた	三食とも事業所で調理し、利用者の好みを大切に献立で、利用者のできることを活かした漬け物作り、大根の皮のきんぴらなどの調理、食器洗い、後片付けを一緒にすると共に、同じ物を食べながらゆっくりと食事を楽んでいる。作ったさつま芋や玉ネギ等が食卓を賑わすこともある。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食書き記す「食事・水分摂取量チェック表」を作成し、把握に努めている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は毎日洗浄剤に漬けている。又本人の状況や気分を見計らって必ず歯磨きするように支援している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	シグナルやタイミングを見落とさないように努め、誘導などして低下を防ぐように支援している。必要に応じては夜間でも起こして誘導している	排便チェック表を活用し、一人ひとりの状況やタイミングを把握して、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食を芋粥にしたり、野菜や繊維質の多い食材を取り入れた献立を意識している。又、「排泄チェック表」をつけて状況の把握に努め必ず次の勤務者に申し送っている。薬が必要な場合は看護師に相談している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	気持ちよく入浴してもらう為にタオルやバスタオルなどを使い羞恥心などを大事にするよう心がけている	週3回、14時から17時の時間帯に、仲の良い人は2人で入ったり、入浴剤の使用などで入浴を楽しめるよう支援している。入浴したくない利用者には声かけに工夫したり、利用者の状態に合わせて、足浴、清拭、半身浴、シャワー浴などで対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に外出から戻った時には本人のペースで休息してもらうようにしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	サプリメントと排便の関係性について嘱託医に相談したり、薬の変更があった場合には経過など記録して報告している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クズ野菜を使ってキンピラを作ってくれて、その作り方まで教わった。また雑巾はすべて縫ってもらっている	雑巾縫い、梅干し、らっきょう、糠漬け作り、味付け、活け花、貼り絵、掃除、カラオケ等一人ひとりの生活歴や力を活かして楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をしている。外気浴、ディサービスのオープンカフェやコンサートに参加する等の気分転換の支援にも取り組んでいる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族総会にて家族に協力を求めたら何家族かは、協力を得ることができた	買い物、四季の花見、外食、初詣、ドライブ(公園、道の駅等)に出かけている。家族と一緒にの外出や、中庭での外気浴や体操など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お祭りの時など希望する利用者にはおこづかいとして本人に預けて使ってもらった		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からホームに電話があった時には、用件等が済み次第、本人にかわり会話ができるように支援している		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ればすぐトイレなので消臭には気をつけている。そして廊下や居間などは季節の草花を飾るように心がけている。	食堂、台所を中心に居室があり、家庭的な雰囲気づくりに努め、食卓の傍のソファでは利用者同士が仲良く話す状況が見られたり、食器を洗いながら職員と会話を楽しんでいる様子も伺えた。中庭を囲む窓からの陽差ざし、木や花で季節を感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人のその時の気持ちや状況、思いに応じて使ってもらえるようにソファを数ヶ所設置している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が来居した時には孫などの写真を居室の壁に貼ったりしている。母の日には花が届いている	テレビ、タンス、椅子、仏壇、カレンダー、写真、花など使い慣れた物や好みの物を活かして、自分らしい部屋づくりをして、居心地良いように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	就寝の時めがねの置き場所は決めてあり、起床した時にはきちんとかけている。時にはめがねを探すことがあるが「いつものところに置いてます」と伝えるときちんとかけている		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームセンチュリー21

作成日：平成 23年 4月 2日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5 (10)	運営推進会議のメンバーは、市の職員1名、民生委員1名、家族代表1名、入居者2～3名、ホームの職員4～5名で行っているがメンバー拡大について見直したい	特に地域の方について見直していく	グループホーム会議や運営推進会議で取り上げ検討していく	8ヶ月
2	15	GH協会に加盟してなく、他のGHとの交流がされていない	GH協会加入を検討していく	GH協会加入することへの意義について話し合っていく	8ヶ月
3	35 (15)	法人内の施設内研修へは、参加しているがGH独自の緊急時の訓練などはしていない	職員から不安に思う状況について意見を募り3～4ヶ月に1度の周期で勉強会を行っていく	2月17日、GH会議終了後に「誤嚥の対処法」についての勉強会を行った	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。